

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 緑伸会

令和4年度事業報告

社会福祉法人緑伸会
法人本部

1. 法人の概要

1) 名称及び代表者 社会福祉法人緑伸会（りょくしんかい）
理事長 和田 明人（わだ あきひと）

2) 事務所の所在地 東京都板橋区加賀2丁目3番2号

3) 事業目的

[この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行う]

（社会福祉法人緑新会 定款第1条）

4) 経営の原則等

[この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、子育て世帯及び地域において日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。]

（社会福祉法人緑新会 定款第3条）

5) 事業内容

A. 社会福祉事業（第二種社会福祉事業）

- イ 保育所事業「加賀保育園」
- ロ 保育所事業「保育園加賀のこども」

B. 公益事業

- イ 子育てサロン「ひだまり」

2. 理事・監事・評議員 ※令和5年3月31日現在

1) 理事 定数6・現員6

NO	氏名	就任日	職業等	備考
1	和田 明人	R3.6.19	東京家政大学子ども支援学部 教授	理事長
2	岩井 絹江	R3.6.19	学校法人渡辺学園 常務理事	業務執行理事
3	荻村しをり	R3.6.19	社会福祉法人豊川保育園 理事長	法第44条第4項第1号該当
4	高祖 常子	R3.6.19	株式会社ブライト・ウェイ 取締役	法第44条第4項第2号該当
5	猪野 秀子	R5.2.10	保育園加賀のこども 園長	法第44条第4項第3号該当
6	今留 忍	R4.4.1	子育てサロンひだまり 施設長	法第44条第4項第3号該当

2) 監事 定数2・現員2

NO	氏名	就任日	職業等	備考
1	佐野 清克	R3.6.19	元福井工業大学 事務局長	法第44条第5項第1号該当
2	亀岡 保夫	R3.6.19	大光監査法人 会長（公認会計士）	法第44条第5項第2号該当

3) 評議員 定数7・現員7

NO	氏名	就任日	職業等	備考
1	朝比奈太郎	R3.6.19	社会福祉法人ムクドリ福祉会 理事長	法第40条第1項各号非該当
2	福島 頼秀	R3.6.19	音楽家	法第40条第1項各号非該当
3	保坂 克二	R3.6.19	東京家政大学 学園本部長	法第40条第1項各号非該当
4	久保田直子	R3.6.19	社会福祉法人にりん草 理事長	法第40条第1項各号非該当
5	大澤 力	R3.6.19	東京家政大学附属中高校 統括校長	法第40条第1項各号非該当
6	井戸 裕子	R3.6.19	元東京家政大学 教員	法第40条第1項各号非該当
7	土田 壽子	R3.6.19	社会福祉法人リベルテ 理事	法第40条第1項各号非該当

3. 令和4年度評議員会開催状況

1) 令和4年度定時評議員会

開催日時 令和4年6月25日(土) 10時30分～11時40分

開催場所 東京家政大学 百周年記念館3階 第3会議室

出席者 出席評議員 ※評議員総数7名中5名出席

評議員 保坂 克二 評議員 大澤 力

評議員 久保田 直子 評議員 井戸 裕子

評議員 土田 壽子

欠席評議員

評議員 朝比奈 太郎 評議員 福島 頼秀

出席監事 ※監事総数2名中2名出席

監事 亀岡 保夫 監事 佐野 清克

出席理事

理事長 和田 明人 理事 岩井 絹江(業務執行理事)

議題 □報告事項

(1) 令和3年度事業報告について

(2) 子育て支援事業について

□決議事項

第1号議案 財産目録および計算書類(資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表)の承認に関する件

第2号議案 社会福祉充実計画に関する件

第3号議案 定款の変更に関する件

2) (書面表決による) みなし決議

評議員会の決議があったものとみなされた事項の内容

議案「理事1名選任の件」

提案事項…猪野秀子氏を理事に選任すること

評議員会の決議があったものとみなされた事項を提案した者の氏名

理事長 和田明人

評議員会の決議があったものとみなされた日

令和5年2月10日 ※評議員全員(7名)の書面による同意あり

4. 令和4年度理事会開催状況

1) 第9期第6回理事会

開催日時 令和4年4月1日(土) 19時30分～20時30分

開催場所 東京都板橋区板橋4丁目47番7号 I FLAT(アイフラット) 4階

出席者 出席理事 ※理事総数6名中6名出席

理事 和田 明人 理事 岩井 絹江
理事 荻村 しをり 理事 今留 忍
理事 高祖 常子 理事 大野 廣子
出席監事 ※監事総数2名中2名出席
監事 亀岡 保夫 監事 佐野 清克
その他 藤間 理紗子(加賀保育園 園長)

議題 □協議事項

第1号議案 子育て支援事業の創設に関する件

2) 第9期第7回理事会

開催日時 令和4年5月28日(土) 15時30分～18時30分

開催場所 東京家政大学 百周年記念館3階 第3会議室

出席者 出席理事 ※理事総数6名中4名出席

理事 和田 明人 理事 岩井 絹江
理事 荻村 しをり 理事 今留 忍

欠席理事

理事 高祖 常子 理事 大野 廣子

出席監事 ※監事総数2名中2名出席

監事 亀岡 保夫 監事 佐野 清克

他出席者

園長 藤間 理紗子(加賀保育園)

議題 □決議事項

第1号議案 令和3年度事業報告(案)に関する件

第2号議案 令和3年度計算書類(案)に関する件

第3号議案 子育て支援事業に関する件

第4号議案 定款の変更に関する件

第5号議案 定時評議員会の開催に関する件

第6号議案 令和4年度期末手当支給に関する件

3) (書面表決による) みなし決議

理事会決議があったとみなされた事項の内容

議案 社会福祉充実計画の策定に関する件

内容: 別紙「社会福祉充実残額算定シート(令和4年4月1日現在)」により

社会福祉充実残額が発生しないため、緑伸会においては社会福祉充実計画は
策定しないこととする

理事会の決議があったものとみなされた事項を提案した者の氏名

社会福祉法人緑伸会 理事長 和田明人

理事会決議があったものとみなされた日

令和4年6月10日 ※理事全員(6名)の書面による同意あり

4) 第9期第8回理事会

開催日時 令和4年10月8日(土) 13時30分～20時00分

開催場所 東京家政大学 百周年記念館4階 第4会議室

出席者 出席理事 ※理事総数6名中5名出席

理事 和田 明人 理事 岩井 絹江
理事 荻村 しをり 理事 今留 忍

理事 高祖 常子

欠席理事

理事 大野 廣子

出席監事 ※監事総数2名中2名出席

監事 亀岡 保夫 監事 佐野 清克

他出席者

園長 藤間 理紗子（加賀保育園）

議 題

□報告事項

- (1) 定款の変更について
- (2) 通信機器類管理委託業者との契約等について
- (3) ホームページの刷新等について
- (4) 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について

□決議事項

- 第1号議案 令和4年度資金収支第1次補正予算（案）に関する件
- 第2号議案 有期契約職員就業規則の一部改正に関する件
- 第3号議案 有期契約職員給与規程の一部改正に関する件
- 第4号議案 子育て支援事業に関する件
- 第5号議案 人事に関する件
- 第6号議案 保護者からの情報開示請求等に関する件

5) 第9期第9回理事会

開催日時 令和4年10月11日（火） 20時30分～22時00分

開催場所 東京都板橋区東京家政大学 百周年記念館4階 第4会議室

出席者 出席理事 ※理事総数6名中4名出席

理事 和田 明人 理事 岩井 絹 江

理事 荻村 しをり 理事 今留 忍

欠席理事

理事 高祖 常子 理事 大野 廣子

出席監事 ※監事総数2名中1名出席

監事 亀岡 保夫

欠席監事

監事 佐野 清克

他出席者

園長 藤間 理紗子（加賀保育園）

議 題

□協議事項

- 第1号議案 保護者からの情報開示請求等に関する件

6) 第9期第10回理事会

開催日時 令和4年10月29日（土） 18時00分～20時00分

開催場所 東京家政大学 百周年記念館4階 第4会議室

出席者 出席理事 ※理事総数6名中5名出席

理事 和田 明人 理事 岩井 絹 江

理事 荻村 しをり 理事 今留 忍

理事 高祖 常子

欠席理事

理事 大野 廣子

出席監事 ※監事総数2名中2名出席

監事 亀岡 保夫 監事 佐野 清克

他出席者

園長 藤間 理紗子（加賀保育園）

園長代理 猪野 秀子（保育園加賀のこども）

議 題

□報告事項

- (1) 保育園加賀のこどもに係る一般指導検査の実施について

□決議事項

- 第1号議案 保護者からの情報開示請求等に関する件
- 第2号議案 個人情報保護規程の改正に関する件

第3号議案 保育園加賀のこどもの園長選任に関する件

7) (書面表決による) みなし決議

理事会決議があったとみなされた事項の内容

議案 評議員会の招集事項を以下のとおり定める。

(1) 開催日時及び開催場所

決議の省略の方法により行う

(2) 議題

理事1名選任の件

(3) 議案

猪野秀子氏を理事候補者とする議案を評議員会に提案する

理事会の決議があったものとみなされた事項を提案した者の氏名

社会福祉法人緑伸会 理事長 和田明人

理事会決議があったものとみなされた日

令和5年2月4日 ※理事全員(6名)及び監事全員(2名)の書面による同意あり

8) 第9期第11回理事会

開催日時 令和5年3月29日(水) 18時30分～20時30分

開催場所 東京家政大学 百周年記念館3階 第3会議室

出席者 出席理事 ※理事総数6名中6名出席(欠席理事なし)

理事 和田明人 理事 岩井 絹江

理事 荻村しをり 理事 今留 忍

理事 高祖常子 理事 猪野 秀子

出席監事 ※監事総数2名中2名出席(欠席監事なし)

監事 亀岡 保夫 監事 佐野 清克

他出席者

園長 藤間 理紗子(加賀保育園)

議 題 □報告事項

(1) 保育園加賀のこどもの運営等について

(2) 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について

その他

□決議事項

第1号議案 令和4年度第2次収支補正予算(案)に関する件

第2号議案 令和5年度事業計画(案)に関する件

第3号議案 令和5年度収支予算(案)に関する件

第4号議案 就業規則の一部改訂に関する件

第5号議案 給与規程の一部改訂に関する件

第6号議案 育児休業等に関する規則の一部改訂に関する件

第7号議案 介護休業等に関する規則の一部改訂に関する件

第8号議案 園規則の一部改訂に関する件

第9号議案 役員等賠償責任保険契約に関する件

第10号議案 評議員会の開催に関する件

5. 監査等の実施状況

1) 社会福祉法人緑伸会監事による監査

監査実施年月日: 令和4年5月20日(金)

監事氏名: 亀岡 保夫、佐野清克

監事監査における指示・指摘事項: 特になし

- 2) 指導検査（対象：保育園加賀のこども）
監査実施年月日：令和4年10月26日（水）
実施機関：板橋区
当該検査における文書指摘事項：特になし
- 3) 指導検査（対象：保育園加賀のこども）
監査実施年月日：令和5年1月11日（水）
実施機関：板橋区
当該検査における文書指摘事項：特になし
- 4) 指導検査（対象：加賀保育園）
監査実施年月日：令和5年1月31日（火）
実施機関：板橋区
当該検査における文書指摘事項：特になし
- 5) 指導検査（対象：保育園加賀のこども）
監査実施年月日：令和5年2月9日（木）
実施機関：板橋区
当該検査における文書指摘事項：特になし

6. 当該年度の主な取り組み

1) 法人経営基盤に関する取り組み

①経営基盤の強化

法人ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底化を図るとともに、財務管理の規律化と安定化を図った。

②新規事業の創設

これまでの保育所事業に加え、新規に公益事業「子育てサロン ひだまり」を創設した。

③事業公開・発信に向けてのインフラ整備

本法人の事業内容（取り組みの実際）を積極的に公開するためにホームページの改変を行い、効果的な広報活動をも展開しうる情報発信の基盤整備を図った。

2) 管理運営上の取り組み

①事業運営の構造化

法人業務の共通領域（会計処理、給与計算、人事管理・労務管理、請求業務等）を明確化し、法人本部にて一体的一元的に管理し始めるなど、事業運営の構造化を図った。

②業務の合理化と情報の共有化の基盤整備

会計・給与計算業務についてシステム化を図り、ICTを駆使して業務の合理化と情報の共有化のための基盤整備を図った。

③ステークホルダーとの関係強化

保護者及び行政機関との円滑な連絡調整や透明性担保による相互信頼関係の構築を図った。

④職員との関係強化

理事長および業務執行理事等と職員との相互信頼関係の強化のため、対話の機会を設けるなど、積極的にコミュニケーション等を図った。

令和4年度事業報告

社会福祉法人緑伸会
加賀保育園

1. 基本方針

本法人の保育理念である「子どもの幸せと育ちを何よりも大切に、子ども一人ひとりの生きる力を、心を込めて育てる」と、運営方針である「保護者・保育者・地域が知恵と力を寄せ合って安全・安心の運営を行う」を日々の保育実践を基軸にして組織として具現化していくことに努めた。

また、子どもも保育者も共に喜び、楽しみ、感動し合い、育ちあえるよう、職員はそれぞれ保育技術の研鑽に励み、資質と専門性の向上に努めた。

2. 児童の入所状況

在園児数 (定員 122名)

年齢 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳	3	3	3	4	4	5	6	8	10	10	10	10	76
1歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
2歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
3歳	24	24	24	24	24	24	25	25	25	25	25	24	293
4歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
5歳	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324
合計	114	114	114	115	115	116	118	120	122	122	122	121	1413
要支援児	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	17
延長保育月利用	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	12

3. 職員の状況

在籍状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主任保育士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
正規保育士	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
非正規保育士(常勤)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
非常勤保育士	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
栄養士	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
非常勤職員(無資格)	7	7	7	7	6	7	7	7	7	7	7	7

4. 職員の業務分担

係	担 当 者		
お泊り保育	船田	平山	窪田
運動会	岩本	佐藤	平山
いもほり遠足	佐藤		
ホームカミングデー	澤上	平山	
クリスマス	幼： 近藤	乳： 斎藤(光)	
新年子ども会	斎藤(麻)	新野	
発表会	松原	岩山	小林(友)
ひなまつり	幼： 岩山	乳： 田村	
卒園式	亀井	田村	
地域交流	澤上	小林(和)	内山
園内研修	澤上	田村	
シフト	船田	窪田	
教材庫整理	田村	平山	
写真・誕生カード	澤上・窪田・亀井・斎藤(麻)・平山・岩山		
絵本	内山・斎藤(光)・新野・船田・佐藤・近藤		

5. 保育について

- 1) 乳児クラスは担当制で保育し、愛着関係をしっかり結び、一人ひとりの発達に合ったきめ細やかな援助や、人間関係を広げる土台作りとしての関わりに努めた。
0歳児クラスは3名でのスタートとなった。12月には定員の10名になったが、毎月新入園児がいる状況は職員も初めてのことであった。担当保育者との愛着関係がしっかり築けていることや職員の連携がとれたことで、既に慣れている子の生活が崩れるようなことはなかった。
- 2) 幼児クラスは異年齢の生活の中で、互いを認め合いながら関りを深め、それぞれの思いを言葉で伝え、話し合いながらより主体的に物事を進めていく場面が増えた。
- 3) 外部講師による「おはなしかご」「リトミック」は継続して行った。豊かな想像力や表現力が培われるよう日常の遊びにも取り入れ、リズム遊びやハンドサインの定着だけでなく、自然と楽器に触れて楽しむ機会も増えた。発表会では講師と共にその姿を保護者に見てもらえた。
- 4) 行事については、感染症対策をとりながらも、これまでのやり方に戻すことにこだわらず、行事の在り方を改めて考えながら進めた。

＜主な行事＞

- ・7月 「5歳児お泊まり保育」
 - ・10月 「運動会」 プログラムを考慮し、全園児での実施とした。
初めての園行事となった乳児クラスの保護者にも喜んでいただけた。
 - ・10月 「4・5歳児芋ほり遠足」
公園での飲食はせず帰園後園庭でお弁当給食とした。
 - ・2月 「発表会」 2～5歳児クラスごと入替制で実施した。
- 5) 発達に合わせた遊具の見直しや季節に合った環境づくり、社会性の育ちや主体的に遊ぶ保育環境を計画的に構成することに努めた。各クラスに10万円の予算をつけていただくことで、計画に基づく保育実践に向けて、保育者もより保育内容や「環境」を考えることができた。
 - 6) 児童虐待や心身に苦痛を受けていないか等を常に意識して視診を行った。
家庭支援センターや健康福祉センター等の関係機関との連携を必要とするケースや、家庭的支援を必要とするケースが増えているので、必要な情報は職員で共有し、個人情報の取扱いには十分気をつけた。

6. 食育について

- 1) 幼児クラスは食への興味を育てることを目標に、野菜を育てて味わったり、野菜の皮むき等朝の日常的なお手伝いで食材に触れる機会を多く持ち、年齢に応じて米とぎ・炊飯や、カレー作り等のクッキングも積極的に行った。また、栄養士が毎月「栄養のはなし」として栄養バランスや季節の食材、マナーを伝えたり、毎日ランチルームで喫食状況を見ながら関わり、栄養士と子どもが身近な存在となり、食への関心を培うことができた。
- 2) 乳児クラスは担当保育士と毎日食事することで、その子の生活リズムに合った食事や、細かな変化に配慮しながら必要な援助を行い、楽しい食事に心がけた。
また、食材摂取確認票を活用しながら安全かつスムーズな離乳食の提供に努めた。
保護者との連携においては、より具体的な提示の仕方や配慮が必要なケースも増えているので、家庭状況に応じた対応を心がけた
- 3) 保護者と栄養士・保育士・看護師の連携を密にし、アレルギーを持つ子どもの誤食がないように十分配慮し、食育活動においても同じ経験ができるように配慮した。
- 4) 毎月の食育会議で、食具についての意見交換やランチルームでの対応の確認ができ、栄養士と保育士との連携もとれた。

7. 職員育成と園内外研修

- 1) 日常の保育における課題や疑問は、毎月の乳児・幼児会議で事例を持ち寄りながら検討を行った。特に乳児会議では、日常の保育を動画に収めて振り返ることで、新たな気づきや学びがあった。
- 2) 外部研修もそれぞれ計画的に受講することができた。(資料1参照)
- 3) 園内研修は、今年度も職種を超えた5グループが一年を通してテーマを決めて学びを深め、年度末にグループ発表を行った。どのグループも充実した発表となり、経験のある職員が中心となるだけでなく、職種を超えて学び合うことができた。
その他、野澤純子先生に講師依頼をし、全職員で「インクルーシブ保育」について学ぶことができた。

8. 防災防犯と安全管理

- 1) 消火訓練・避難訓練は毎月1回、引き渡し訓練は年1回、消防立会いの総合訓練は1回、それぞれ計画通りに実施した。
- 2) 不審者対応訓練を年2回実施した。訓練実施に当たっては、見落とし、置き去り事故の実態も踏まえ、子どもがいないことにはいかに早く気付けるかという視点も含めて行った。
- 3) 園内の各場所の安全管理チェックは毎月行い、園内消毒と砂場消毒は年2回行った。
- 4) 新型コロナウイルス感染症の予防対策の徹底に努めた。玩具や共有部分の消毒をこまめに行った。乳児クラスは連絡帳で、幼児クラスは健康観察カードを作成して、日々の健康管理を行い、早めの対応という点においては保護者の協力も得られた。その結果、家族からの感染者は発生したものの、園内での感染拡大はなかった。
また、インフルエンザの発生もなかった。
- 5) 怪我等による受診0件

9. 保護者との関わり

- 1) 運営方針と事業計画を配布し理解を求めた。
また、年2回のクラス保護者会と個人面談も行い、多くの保護者に参加していただけた。
- 2) 子どもの様子をより分かりやすく伝えるため、行事等ではその日の姿だけではなくそこに至るまでの過程を知ってもらえるよう、写真や動画を取り入れて伝え方にも工夫をした。「伝える」伝え方の難しさも感じているが、「伝えたい」思いは職員にも高まっている。
- 3) 園での様子や子どもの育ちをより理解していただくため保育参加も実施した。特に「不適切な保育」がニュースになっていた時期でもあったため、日常の保育者の関りを直接見ていただくことで、安心に繋がったという感想も多くいただいた。
- 4) 保護者と保育士との交流の場としておこなっている「よるカフェ」は、2回開催した。毎回とても喜んでいただき、「よるカフェ」への期待が大きいことを実感している。
- 5) 臨床美術“親子でアートを楽しむ”や日テレアナウンサーによる絵本の読み聞かせ等、新たに親子で参加できるワークショップを企画した。特に臨床美術のお申し込みは多く、保護者の方の期待や意識の高さを感じられた。
- 6) 外国人の保護者が増え始め、コミュニケーションの難しさを感じることも多くなっているが、翻訳機や写真、動画等を活用しながら相互理解の工夫を図り、子どもの様子を伝え、安心してもらえるよう努めた。

10. 地域との関わり

- 1) 園庭開放・給食体験等の地域の子育て支援活動は、例年以上に多数の参加申込みがあったが、その際、ホームページからの情報発信により申込みをされる方も多かったため、ホームページをリニューアルした効果が感じられた。
- 2) 小中学生の夏のボランティア受入れも再開し、多くの参加があった。
- 3) 保育士・栄養士・看護師等の養成校の実習については、できる限り受け入れた。
(保育：6名 栄養：8名 看護：31名)
- 4) 地域における公益的な取り組みとして、年長児がごみ拾い活動を行い、地域の一員としての自覚を育む機会とした。毎月の活動を通して自治会の方にもこの活動を知っていただくことができた。また、これを機に地域に関心を持ち、マップ作りへと発展し、発表会で発表するまでの活動となった。
- 5) 世代間交流として東京都健康長寿医療センターの読み聞かせボランティア「りぷりんと」の方が毎月一回読み聞かせを行ってくれた。読み聞かせを通して良い交流がもてている。
- 6) 近隣小学校との関わりも再開され、小中学校やアイキッズとの連絡会等にも参加し、そこで得た情報を職員で共有し、就学を見据えた保育を考えることに繋げることができた。

11. 今後の課題

- 1) 職員の経験年数が増す中でも、意欲的に保育に臨めるような職場環境や労働環境を整えていく。
 - ・超過勤務の月平均・・・約2時間
 - ・有給休暇使用平均・・・12日
- 2) 当該年度は定員未充足の問題に直面した。地域内の対象児童の減少により、今後も続いていくことが予想されるが、事業収入と密接不可分で経営問題ともなるため、地域内で選んでもらえる園となって定員規模を維持できるよう、保育の質の向上を図り、利用者ニーズにマッチした園運営に努めたい。

12. 採用・退職について

異動 令和4年4月 正規保育士 菅原恵美子 (保育園加賀のこどもへ異動)

退職 なし

令和4年度事業報告

社会福祉法人緑伸会
保育園加賀のこども

1. 基本方針

本法人の保育理念である「子どもの幸せと育ちを何よりも大切に、子ども一人ひとりの生きる力を、心を込めて育てる」と、運営方針である「保護者・保育者・地域が知恵と力を寄せ合って安全・安心の運営を行う」を日々の保育実践を基軸にして組織として具現化していくことに努めた。

また、子どもも保育者も共に喜び、楽しみ、感動し合い、育ちあえるよう、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束が見られない中で保育の質を担保しながら、職員はそれぞれ保育技術の研鑽に励み、資質と専門性の向上に努めた。

2. 児童の入所状況

在園児数 (定員 105名)

年齢 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	142
1歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
2歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
3歳	19	19	19	20	20	19	20	20	20	20	20	20	236
4歳	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	251
5歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	239
合計	100	101	102	103	103	102	103	103	103	103	103	102	1228
要支援児	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
延長保育月利用	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36

3. 職員の状況

在籍状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主任保育士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
正規保育士	13	14	14	14	14	14	14	14	14	11	13	13
非正規保育士(常勤)	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3
非常勤保育士	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
栄養士	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3
正規看護師	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1(休)	1(休)	1(休)	1(休)	1(休)
非常勤職員(無資格)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

4. 職員の業務分担

1) 園内業務分担

☆印はリーダー

係名	担当者名
教材発注・今日在庫整理・管理	☆及川 菅原(萌)
貸し出し絵本と整理	☆米内 高篠
写真・動画・ホームページ	☆小野 近藤(事) 末永
慶弔・レク	☆寺島 水島 濱井
研修	☆漆畑 村上 菅原(萌) 富川

2) 行事担当業務分担

☆印はリーダー

係名	担当者名
避難訓練・不審者訓練	大野 近藤
こどもの日	☆亀井 武藤
七夕	☆末永 大久保
プール	☆平井 水島 小野
夏フェス	☆村上 長谷川 菅原(恵) 池田(糸) 濱井 高篠
敬老の日の集い	☆小野 亀井
お月見	☆米内 菅原(恵)
スポーツフェス	☆菅原(萌) 平井 武藤 水島 小澤 富川
4、5歳児遠足	☆平井 富川
3歳児遠足	☆池田(糸) 米内
クリスマス・クリスマスバイキング	☆寺島 大久保 小野
新年お楽しみ会	☆米内 末永
節分	☆武藤
アートフェス	☆武藤 大久保 米内
ひなまつり	☆小野 亀井

お別れ遠足	☆平井 大久保
お別れバイキング	☆小林 平井 大久保
卒園式	☆小野 菅原（萌）大久保 平井

5. 保育について

年末から1月にかけて正規4名、非常勤1名、産休1名と6名の保育士が退職となった。

園長、事務も休職が続き、園運営が厳しくなった。

短時間の有資格者2名を1日6～7時間の長時間勤務に切り替えてもらい、有資格者の元職員1名、有資格者3名を短時間勤務で採用した。

園長不在が続き、子どもの命を守ることで精一杯の日々が続いた。

子どもの怪我は数件あったが大きな事故もなく、職員の懸命な努力により後半のアートフェス、卒園式の行事も実施することが出来た。

1) 行事について

対策をとりながら行える方法を柔軟に考えできるだけ限り実施に努めた。

- ・7月 夏フェス
- ・10月 スポーツフェス
- ・11月 4・5歳遠足
- ・12月 クリスマスバイキング
- ・1月 新年お楽しみ会
- ・2月 アートフェス
- ・3月 お別れ遠足
卒園式

6. 食育について

1) 厨房職員の安定

栄養士が4名揃い、安定した体制で取り組むことができた。

2) コロナ禍での食事

コロナ禍でのランチルームでの4、5歳児の食事スタイルを模索した結果、着席数を1テーブル2名で一定方向を向いて着席し、できるだけ短時間で食べて部屋へ戻るようにしている。それ以外のクラスは、各保育室で狭い中でできる限りの工夫をしながら感染症対策と子どもの食への意欲を高められるような環境設定を随時見直しながら行っている。

3) 今後の課題

栄養士の人数が増え改善できたことが多いが大量調理の経験者が少なく、力量的に基本的な調理作業を完遂させることで精一杯であったが、年度の後半は少しずつ食育の充実や子どもの食に関する情報（たとえば、食具や、口腔発達などについての専門的な知識）について職員や保護者に伝えられるようになってきた。栄養士が定着して経験値が上がることにより、より一層栄養士がリードしていくことができるように学びを深めてほしい。

7. 職員育成と園内外研修

※研修受講内容は、別紙1を参照

1) 園内研修

少人数のグループに分かれ、先輩保育士と新任保育士で対話を行う機会を多く持った。保護者対話、ごっこあそび、積み木等のテーマを上げ大切にしたい点や対応の仕方等共通理解を深めた。

2) 外部研修

昨年度はコロナ禍で外部研修にほとんど参加できなかったが、今年度はオンライン研修の増加により参加がしやすくなった。予算の研修費も増額できたおかげで若い職員も研修に参加しやすくなり、学びへの意欲が格段に向上した。研修後はレポートを非常勤職員も含めて回覧したり、研修報告会を開催して共有できるようにした。

3) 実習生の受け入れ

〈受け入れ実習生人数〉

保育実習生 3名 (11月～3月)

看護実習生 40名

8. 防災防犯と安全管理

1) 消防訓練

消火訓練・避難訓練は毎月1回、引き渡し訓練は年1回、実施した。

昨年度の反省から水消火器を購入し、毎月の初期消火訓練時に使用した。実際に標的に向かって消火器を噴射させる動作ができることでより実践的な訓練ができるようになった。

2) 不審者訓練

年に1回行った。板橋警察署の協力を得て、幼児クラスを対象に園外で不審者に遭遇した想定との訓練と合わせて110番通報の訓練を行った。

不審者と対峙する時のポイントや通報する際のポイントを実践を通して学んだ。

他にも散歩中に気をつけた方がよい場所(茂みなど)を教えていただいた。

その後の職員会議で全体共有を行った。

3) 職員への保健指導

AEDを含む救命処置やアレルギー対応、嘔吐処理を看護師からパート職員を含む全職員に指導した。嘔吐処理やケガ発生時の初動は看護師が対応することが多く、直接経験したことのない若手職員もいるため、今後は実際に起きた際にも看護師以外の職員が自分で対応する機会を作るようにする。

4) 園舎の安全チェック

園庭や屋上の管理については、砂場消毒を年2回と植栽の手入は随時、園庭や屋上の危険物チェックは毎日の園庭遊び時に保育者がチェックした。

まだ新しい園舎であるが小さな修繕や不具合が生じており、その都度理事長や業務執行理事に相談して施工業者に依頼して修繕した。

9. 保護者との関わり

1) 運営方針と事業計画を配布し理解を深めた

また、年2回のクラス保護者会と個人面談も行い、多くの保護者に参加していただいた。

2) 子どもの様子を分かりやすく伝えるため、連絡帳や日々の活動報告を掲示した。

行事ではその日の姿だけではなくそこに至るまでの過程を知ってもらえるよう、写真や動画を取り入れて伝え方にも工夫をした。

3) 12月に東京家政大学教授 保坂遊先生の指導で“親子でアートを楽しむ”ワークショップを行った。親子で83名の参加があった。

3月には日テレアナウンサー杉上佐智枝さんより“絵本の読み聞かせ”“絵本で遊ぶ”ワークショップを行った。親子で40名の参加があった。

10. 地域との関わり

1) 地域の高齢者とのかかわり

新型コロナウイルス感染症対策のため、十分な活動はできなかった。

昨年同様に、五四自治会会員の高齢者の方々へお手紙や手作りのプレゼントを子どもたちから贈った。またその作品はファミリーマートに飾っていただき、地域の方々にも見ていただくことが出来た。

卒園式には五四自治会長を来賓としてご参加いただくことが出来た。

11. 今後の課題

- 1) 職員一人ひとりがそれぞれの経験や持ち味を活かし、意見を活発に交換してより良い保育を共に目指し協働できるような環境づくりに取り組んでいく。
- 2) 新しい体制の中で、職員同士でお互いをよく知り、学びあい、育ちあいができるようにしていく。
- 3) 親子で参加ができるワークショップを通して、それぞれが学び、園への理解を深めることで伴に子育てをする喜びを共有する。

12. 採用・退職について

<採用>

令和4年	4月	正規	保育士	大久保	美紗
令和4年	4月	正規	保育士	高篠	真由
令和4年	4月	正規	管理栄養士	小澤	薫乃
令和4年	6月	正規	管理栄養士	小林	咲里
令和5年	1月	非常勤	保育士	鹿目	尋美
令和5年	2月	正規	保育士	嶋田	篤也
令和5年	2月	正規	保育士	大網	博史

<退職>

令和4年	12月	非常勤	保育士	尾形	麗
令和5年	1月	正規	主任保育士	富川	華恵
令和5年	1月	正規	保育士	池田	糸織
令和5年	1月	正規	保育士	漆畑	恵美
令和5年	1月	正規	園長	大野	廣子
令和5年	2月	正規	主任保育士	及川	祐美
令和5年	3月	非常勤	保育士	諏訪原	久美子

令和4年度事業報告

子育てサロンひだまり

I. 事業の成果

1. 子育て支援

1) 相談・指導、休息

子どもの健やかな成長・発達、母親、父親、きょうだい、家族全体の心身の健康サポートを目的に、“はなす・やすむ・つながる”をコンセプトとして、助産師・小児看護専門の看護師による子育てに関する相談・指導、休息は、一定の成果を上げた。

4月からの準備期間を経て、10月から事業を開始した。1月から3月にかけて、ひだまり利用者数は、5名で、うち2名は、板橋健康福祉センターからの紹介であった。来所日時は、利用者の希望を優先し、相談内容によって、助産師あるいは小児看護専門の看護師が対応するかを決定した。また、来所の際は、ゆっくり相談できるよう、連れてきた児は、利用者対応以外のスタッフが世話をした。

子育てへの感情と育児不安、育児ストレスを感じている2名の利用者に対しては、ネガティブな経験そのものが育児ストレスにつながり子育てへの感情、育児不安、育児困難は互いに連鎖していると考え、利用者の心情に寄り添いながら、話を聞き、解決策を共に考えることを心掛けた。こうした対応により、“参考になった”“トライしてみる”“夫、周囲の人の協力を得るようにする”等の発言が聞かれたことから、スタッフが実践した相談(話を傾聴する)・指導(実践可能な策を提示する)は、育児や今後の生活に対して母親の気持ちにポジティブな変化をもたらしたと評価できる。

休息は、2名が希望し、1名は3時間、もう1名は6時間(午前3時間、午後3時間)に及ぶものであった。休息の間は、隣室にて、スタッフが児(2ヵ月、2ヵ月半)の世話をを行い、児の世話から解放された時間と睡眠時間を確保する配慮は、適当であった。

心理的サポート、個別対応によるひだまりの支援は、利用者のニーズに即しており、引き続き、母親の育児適応を高め、住み慣れた地域で自分らしい子育てができるよう、オリジナリティ溢れる妊娠、出産から育児まで切れ目のない支援を行っていきたい。

2) 子育て応援プログラム(セミナー)

11月から月1回、月曜日から金曜日に実施している自治体が多いことから、また父親が参加しやすいよう、第2土曜日に1時間実施した。スタート年度は、ひだまりのスタッフによる「知って得するミニ講座」と銘打って、加賀保育園ホールにて開催し、会場参加とオンライン参加、2種類の方法を採用した。セミナーの開催については、HP、チラシを媒体として情報発信し、集客の確保につなげた。テーマによっては、夫婦、児の3人での参加や参加者と講師との意見交換が活発に行われた。

モデル人形を使った実技演習も組み入れ、参加者に体験してもらう等工夫することにより、参加者の興味・関心を得るとともに、信頼性が高く、正確な情報提供に向けた成果を得たと考える。

次年度は、親が安心して子育てに向き合えるようになるために、東京家政大学と協働し、子育て応援プログラムにより、信頼性が高く安心できる場と正確な情報を提供していく。

2. 関係機関や地域との連携

本法人を設立した東京家政大学、板橋区子ども家庭部子育て支援課、健康推進課母子保健係、板橋区健康福祉センターに事業実施について働きかけ、情報発信により、母子保健係の看護職、事務職の職員がひだまりの見学に訪れたり、各部署にパンフレットを設置してくれたり、保健指導対象者にひだまりの紹介をしてくれる等、協力が得られ、友好関係を築くことができた。

子育て支援課からは、板橋区「すくすくカード」事業者登録に関する情報提供があり、事業者登録への申し込みに必要な書類を作成し、提出した。その結果、審査会を通過し、令和5年度より、すくすくカードメニューブックにひだまりが掲載されることになった。3歳未満の乳幼児を

子育て中の保護者の育児不安・負担の軽減を図るとともに、保護者のリフレッシュ機会の確保等、子育て家庭への支援を目的とした板橋区の事業への参入により、すくすくカード利用者のリピートに期待したい。

3. 運営資金の確保

6月、公益財団法人東京都福祉保健財団の「子どもが輝く東京・応援事業」応募に関する説明会に出席し、7月末、助成金申請に必要な書類を作成、提出した。残念ながら採択には至らなかった。

今後も、資金獲得に向け助成金募集に関する情報を収集し、積極的に応募する。

II. 事業内容・実施状況

1. 子育て支援

1) 相談・指導、休息

来所日時	内 容	対 応
令和5年 1月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・8カ月の男児を連れて来所 ・来月3歳になる長男は「あいあい保育園」に登園。実家は高知(夫)、仙台(本人)。夫は、18時頃に帰宅。子育てには協力的 ・子育てに関する相談 	助産師
2月8日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・8カ月の女児を連れて来所 ・育児と復職に関する相談 児が泣いたりぐずったりすると手が出てしまうことがある。4月からの保育園入園を悩んでいる。 → 夫ともよく話をして結論を出すように 	助産師
3月6日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・3カ月の男児を連れて来所 ・休息3時間を希望 	看護師
3月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・2カ月の男児を連れて来所 ・休息6時間を希望 	看護師
3月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・8カ月女児を連れて来所 ・育児に関する相談 昼寝をしない、夜泣きをする。 しなければならないことが全くできない、睡眠が十分とれない。朝夕の第1子の保育園への送迎、授乳・離乳食、夕方の2人の子どもの入浴などで疲れてしまう。疲れて、夜には頭がボーとして整理できなくなる。やらなければならないことは沢山あるが何もできない。 → 家事ができるので、おんぶ紐を使ってみる。 あれもこれもやらなければならないと思わない。やりたいこと、やらなければならないことを整理して、優先順位をつけて夫の休日に手伝ってもらいながら行う。 子どもの一時預けや保育園への送迎などに安価な社会資源(ファミリーサポートセンターなど)を活用するのも一案。 睡眠不足で疲労感があるため、ひだまりでの休息を提案。 当日午後の「休息」利用を希望。 相談・指導は、12:10終了。一旦帰宅し、午後再来所。 	助産師

【サマリー】

1月から3月にかけて、ひだまりの利用者は5名。子育て支援事業開始から3カ月が過ぎ、「子育てサロンひだまり」の周知も若干進んできた時期である。板橋健康福祉センター保健師による紹介も利用者の来所につながっている。

1歳未満の児の母親は、育児に対する不安や悩みを抱えている。1対1で相談できるひだまりは、少なからず子育てへの自信につながり、助産師によるアドバイスは、育児に対する不安の軽減、対処能力を高める場になっていた。児を預け、睡眠をとることは、心身のリフレッシュにつながっている。

利用料金は、相談・指導1時間以内800円、1時間以上1,000円。休息1時間以内1,000円、1時間以上3,000円と定めているが、初年度であることから、無料とした。

2) 子育て応援プログラム（セミナー）

会場；加賀保育園ホール 時間；10：00～11：00

実施日	テーマ	進行	講師
令和4年 11月12日（土）	寒さから赤ちゃんの皮膚を守ろう －冬に向けた赤ちゃんのスキンケア－	今留忍	川杉久子
12月10日（土）	起こりやすい子どもの事故（1） －のどを詰まらせたときの応急処置－	今留忍	長島文子
令和5年 1月14日（土）	起こりやすい子どもの事故（2） －家の中で起きやすいやけど－	今留忍	長島文子
2月18日（土）	冬にかかりやすい赤ちゃんの感染症	今留忍	川杉久子
3月11日（土）	祖父母に向けた最近の子育て事情 －こんなに変わった今と昔の違い－	今留忍	鈴木美恵子

【サマリー】

加賀保育園ホールにおいて、月1回セミナーを開催。セミナーは、会場実施だけではなく、オンラインでも実施した。参加者数は、第1回2名(夫婦・3カ月の男児)、第2回7名(夫婦3組、母親いずれも子連れ)、オンライン参加2名、第4回2名、第5回3名、オンライン参加2名であった。

セミナーの終了時に実施したアンケートから、セミナー開催は、家族・知人、チラシを通じて知り得ていた。参加理由は、興味・関心、他者からの勧めが多かった。総合評価は、概ね「とても良い」、内容については、「とても役に立つ」「役に立つ」という結果であった。

第2回ののどを詰まらせたときの応急処置は、モデル人形を使ったデモンストレーション後、参加者に体験してもらった。「事故が起こった際に冷静に対応できると思う」「勉強になった」「対応を知ることができた」等の感想が記されていた。セミナー後の参加者、講師、スタッフとの会話の場は、「いろいろな話ができて、楽しかった」「皆の貴重な話を聞くことができてよかった」ことから、今後も継続していきたい。

Ⅲ. 子育てサロンひだまりの運営経緯

1. 板橋区すくすくカード事業者登録に関する申請

採用基準の1つ「区内で利用可能な公的またはそれに準じる子育て支援サービスであること」を満たすことから、事業者として登録を受けることにした。すくすく事業にメニュー追加するためには、「板橋区すくすくカード事業者審査会」の承認が必要となる。審査会に申し込むために必要な書類を整え、子ども支援課子育てサービス係提出した(11月11日)。審査会(12月から1月)を経て、1月5日「子育てサロンひだまり」の現地調査が行われた。1月25日事業者として承認されたという連絡を受け、令和5年度版「すくすくカード」メニューブックにカード使用施設として掲載されることになった。カード(1人につき利用券6枚)1枚500円～800円換算。1～2枚でひだまりを利用(ひだまり利用料金800円、1,000円)できることになる。

2. 関係機関との連携

和田理事長とともに、板橋区医師会長齋藤氏にひだまり開設の挨拶に出向き、ひだまりの方針、事業概要、広報活動等について説明を行い、理解を得た。

ひだまり開設前から板橋区役所健康推進課母子保健係新井氏と江口氏にひだまりの子育て支援事業について伝え、理解とアドバイスを得た。板橋健康福祉センター大城氏を介して、2名が来所した。12月14日には、板橋健康福祉センターから3名（所長、保健師2名）、健康推進課から4名（事務2名、保健師2名）計7名が来訪。ひだまり室内の見学、意見交換等が活発に行われた。

すくすくカード事業者登録に際しては、子ども支援課子育てサービス係沼氏から情報が提供される等、ひだまりの事業に対して好意的でありかつ協力の意向が示され、関係性はスムーズに成立できた。

3. 情報発信・広報活動

作成した子育てサロンひだまりのパンフレットを健康推進課保健係、子ども支援課子育てサービス係、健康福祉センターに持参し、設置を依頼。HPを開設し、子育てサロンひだまりの周知を図った。セミナーのチラシを加賀保育園エントランスの書架に設置、0歳から3歳児の部屋の入口に掲示し、セミナーの開催を報じた。参加者数は、前述の通りである。広報活動については、加賀保育園保育士、職員も担い手となっている。

4. 運営資金

運営資金獲得のために、公益財団法人東京都福祉保健財団が結婚、子育て、学び、就労までのライフステージに応じた事業に対して交付する助成金を申請した。「妊娠、出産、育児期における親や子供に対する支援」事業計画を策定し、7月中旬に提出した。9月1日形式審査・書類審査の結果、プレゼンテーションによる審査に進むことができない旨を記した特定記録が届き、採択には至らず、運営資金獲得については、継続課題である。

以 上